学思 84

2025 年 10 月～ 12 月

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」――『論語・為政篇』

目 次

● センター長のコラム……2

● 活動報告……3

・JSPS 中国同窓会遼寧支部会

・大連理工大学における JSPS 事業説明会

・JSPS 中国同窓会湖北支部会

・JSPS 中国同窓会浙江支部会

・JSPS 中国同窓会総会

・2025 年度希平会総会

● 活動記録（2025 年 10 月～ 12 月）……7

● 理事長新年挨拶……8

● 編集後記……8

JSPS BEIJING OFFICE

学思 No.84 | 2025.10~12

「ボトムアップ型」研究支援の系譜

2025 年 12 月に挙行されたノーベル賞授賞式は、日本人研究者 2 名が同時に受賞するという 10 年ぶりの快挙に、日本国内のみならず近隣諸国からも大きな注目を集めることとなりました。生理学・医学賞を受賞した坂口志文教授（大阪大学）と化学賞を受賞した北川進教授（京都大学）のお二人とも、受賞後の会見において、日本の基礎研究への支援の拡充と、次世代を担う若手研究者の育成・支援の重要性を強く訴えておられました。これは、日本の研究力の将来を危惧してのご発言ですが、その一方で、世界の第一線で活躍されるお二人の言葉は、長年にわたり地道な基礎研究への支援や若手研究者の育成を担ってきた JSPS にとって、非常に心強いエールともなっています。

ところで、JSPS は、1932 年にその前身である財団法人日本学術振興会が設立されて以来 100 年近くにわたり学術振興の任に携わってきました。しかし、基礎研究や研究者の自由な発想に基づく研究の重要性を訴えたり、研究者の「自主性」や「研究の多様性」を明確な方針として強調するようになったのは、それほど昔のことではなく今世紀に入ったあたりからではないかと私は感じています。

2001 年、中央省庁再編により文部省と科学技術庁が統合して文部科学省が発足しました。これが大きな転換点となり、文部省の傘下にあった JSPS と科学技術庁の傘下にあった JST（現・科学技術振興機構）との役割分担を明確にすることが求められるようになりました。これに先立つ 1999 年には、文部省から JSPS へ科学研究費（科研費）関連業務が移管されており、さらに 2003 年の独立行政法人化を経て、JSPS は名実ともに「ファンディング・エージェンシー」の地位を確立するようになっています。政府が目標を設定する「トップダウン型」の研究支援を主に JST が担うのに対し、JSPS は研究者の知的好奇心に基づく「ボトムアップ型」の学術研究を安定的・継続的に支えるという役割が明確化されたのです。

もっとも、JSPS が研究者の「自主性」を重視する姿勢は、今世紀に入って突如として現れたわけではありません。例えば特別研究員制度は、1985 年に優れた若手研究者に「自由な発想のもとに主体的に研究課題や研究の場を選ぶ」機会を与えることを目的として創設されています。研究者の「自主性」重視の姿勢は、独立行政法人化以前から JSPS の DNA に深く刻まれており、それだからこそ科研費という「ボトムアップ型」の助成事業の受け皿にもなり得たと言えるのではないでしょうか。JSPS の公募事業は、常に大学の研究者などからなる審査員にその評価を委ねてきました。私が 1980 年代に JSPS で奉職し始めた頃、審査会に集まった研究者を前に、当時の理事長が「JSPS は評価には関わらない」として研究のことは研究者に決めさせるという原則を断言していた姿は今でも鮮明に記憶に残っています。

翻って現代、基礎研究の持続的な発展には、個々の研究者を対象とした競争的資金の拡充だけでは不十分であり、研究者が主体的かつ安定的に研究に専念できる「場」としての大学の在り方が、今まさに問われるようになっています。近年の JSPS が研究者個々人への支援にとどまらず、大学の基盤を支援する事業にも乗り出すようになったのは、こうした時代の要請に応えるためとも言えるのではないでしょうか。

センター長　山口英幸

JSPS中国同窓会遼寧支部会を開催

2025 年 11 月 1 日（土）遼寧省大連市において、JSPS 中国同窓会遼寧支部シンポジウム「2025 年大連市空間探査と生命健康インテリジェント感知シンポジウム」を開催しました。JSPS 中国同窓会シンポジウムは、例年、JSPS 中国同窓会会員からの申請を受けて開催しているイベントであり、今回は、大連大学副学長の劉海文教授がコーディネーターを務めました。会場には、研究者や学生、同窓会員等約 150 名が集いました。

開会にあたり、大連市政協郝明副主席及び大連大学趙作偉党書記より祝辞をいただきました。当センターの今城佳奈子副センター長からは祝辞を述べるとともに、JSPS の実施している主要な国際交流事業について説明を行いました。続いて、史生才中国科学院紫金山天文台研究員（中国科学院院士）から基調講演がありました。史生才研究員は、日本の国立天文台での研究経験をお持ちです。その後、共催機関である中国電子科技集団有限公司の主任専門家 2 名及び劉海文教授からも基調講演がありました。午後の分科会では、「宇宙探査と電波天文」「低空経済（ドローン等を活用した経済活動）」「低空医療と健康感知」「大連市低空経済産業化の着地及び場面応用」の 4 つのテーマに分かれ、研究発表と活発な討論を行われました。全国から計 38 名の研究者や専門家が発表を行いました。

史生才　研究員

分科会の様子

劉海文教授は中国の宇宙戦略発展と遼寧省の低空経済の発展推進を背景に、2024 年に「大連大学射頻回路・インテリジェント感知研究院」を設立しています。中国では低空経済産業と宇宙開発が著しく進展しており、中央・地方政府による政策的な支援が行われています。本シンポジウムは、電子情報システムを開発する中電科思儀科技股份有限公司及び中国電子科技集団有限公司第 41 研究所が共催機関であり、大学のみならず複数の企業も研究発表に参加しました。中国の航空宇宙産業の集積地といえ広東省が知られていますが、シンポジウムでは遼寧省においても商用化と学術的意義の両面での積極的な高度化が進められていることが紹介されました。また、宇宙開発と低空経済どちらも学際的な特性を持ち、複数の分野にまたがる技術の統合の必要性が強調されていました。

劉海文　教授（コーディネーター）

今城佳奈子　副センター長

集合写真

大連理工大学にてJSPS事業説明会を開催

2025 年 11 月 2 日（日）遼寧省大連市・大連理工大学において、JSPS 事業説明会を開催しました。本説明会は、JSPS 中国同窓会会員である大連理工大学建築・芸術学院の蘇媛教授にコーディネートいただき開催できました。JSPS 北京センターからは今城副センター長が参加しました。会場には、15 名の研究者や学生、同窓会員が集いました。

開会にあたり、建築・芸術学院の于輝副院長から歓迎の挨拶があり、学院の概要について説明がありました。その後当センター・今城副センター長が挨拶を述べ、大連理工大学と JSPS 及び日本の大学との間の深い関係を改めて振り返りました。現在、大連理工大学には 20 名を超える JSPS 中国同窓会会員が所属しており、各分野で活躍しています。そして蘇媛教授は JSPS 同窓会の元副会長（2022 ～ 2024）として同窓会を支えてくださっています。続いて蘇媛教授からは、主に外国人特別研究員と特別研究員について、早稲田大学での自身の経験を踏まえて説明がありました。また能源・動力学院の李洋輝教授（JSPS 中国同窓会員）からもプログラムの申請に関するアドバイスや訪日時の研究活動の様子、山口大学での生活について報告がありました。

蘇媛教授（左）と今城佳奈子副センター長（右）

集合写真

説明会終了後、海洋能源利用・節能教育部重点実験室などを見学しました。11 月上旬の訪問時、大連は紅葉が最も美しい季節を迎えていました。キャンパスのイチョウ並木が出迎えてくれただけでなく、その光景を写真に撮る学生たちの姿も見られ、学びの場としての活気を感じさせるひとときでした。

JSPS中国同窓会湖北支部会を開催

2025 年 11 月 8 日（土）湖北省武漢市において、第 8 回国際脂質科学と健康学術年会＆第 5 回アメリカ油脂科学者協会中国分会年会が開催され、その分科会として、JSPS 中国同窓会湖北支部長の陳洪研究員（中国農業科学院油料作物研究所）のコーディネートにより「日中脂質と健康フォーラム」が開催されました。JSPS 北京研究連絡センターは共催機関として協力しています。

冒頭、コーディネーターの陳研究員からの開会の挨拶に引き続き、当センターの今城佳奈子副センター長より挨拶と JSPS の実施している主要な国際交流事業について説明が行われました。その後、日本から招へいした慶応義塾大学薬学部の有田誠教授及び京都大学農学部の岸野重信准教授、ベルギー・ゲント大学のフィリップ・ヴァン・ボックステール教授、江南大学の韋偉副研究員の 4 名が登壇し最新の研究成果が報告されました。

会場の様子

た。有田教授は 2018 年に陳研究員がコーディネーターを務めた JSPS 中国同窓会湖北支部会学術セミナーでもご講演されるなど、長年にわたり日中学術交流に貢献されています。

本フォーラムは、同窓会員のみならず多くの若手研究者や学生に対しても JSPS の事業を周知する貴重な機会となりました。また、今回のフォーラムをきっかけに、陳研究員と岸野准教授との新たなネットワークが構築されたりもしています。当センターは今後もさまざまなイベントや活動を通じて、日中の学術・研究交流のさらなる発展に寄与してまいります。

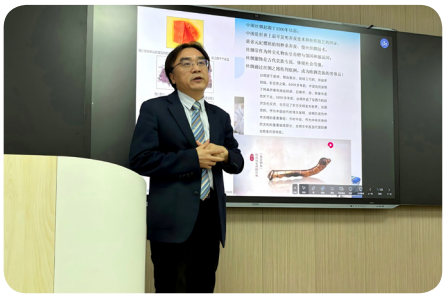
集合写真（右から 2 番目が陳洪研究員）

JSPS中国同窓会浙江支部会を開催

2025 年 11 月 12 日（水）、浙江省杭州市の杭州電子科技大学において、JSPS 中国同窓会浙江支部の主催によるシンポジウム「『中国歴史的伝統産業の継承と革新』学術セミナー」が開催されました。JSPS 中国同窓会シンポジウムは、例年 JSPS 中国同窓会会員からの提案を受けて開催しているイベントであり、今回は、杭州電子科技大学情報工程学院の範作冰教授（JSPS 中国同窓会浙江支部長）がコーディネーターを務めました。会場には 100 名以上の研究者や学生などが集いました。

講演に先立ち、当センターの山口英幸センター長より挨拶があり、今年ノーベル賞を受賞することになった 2 名の日本人研究者がいずれも JSPS の助成を受けてきたことや、JSPS が長年にわたり日中研究交流に貢献してきたことなどが紹介されました。続いて今城佳奈子副センター長が、JSPS の実施している主要な国際交流事業について説明を行いました。

講演のセッションでは、浙江大学作物科学研究所の周偉軍教授（JSPS 中国同窓会員）が「Modern Agriculture in China: Plant Breeding to Crop Design----Experience, Expertise & Excellence from JSPS Program」と題した発表を行い、続いて範作冰教授が「シルクロードから一帯一路へ：中国絹の 5000 年の継承と革新」というテーマで講演を行いました。周偉軍教授は宇都宮大学で、範作冰教授は東京農工大学で JSPS 外国人特別研究員事業の経験があります。両名とも日本での研究の経験談を交えて講演し、参加した学生らが熱心に聞き入っていました。



範作冰教授

会場の様子

範作冰教授、周偉軍教授らとの記念撮影

JSPS中国同窓会2025年度総会を開催

2025 年 11 月 29 日（土）、浙江省温州市において、JSPS 中国同窓会の 2025 年度総会が開催されました。全体で 50 名を超える同窓会員及び同行者の出席がありました。JSPS 中国同窓会湖南支部の蒋崇文支部長（中南大学化学化工学院教授）の司会により開幕し、同窓会の劉山虎会長（河南大学化学・分子科学学院教授）及び当センターの山口英幸センター長より挨拶がありました。また、劉同窓会長から、2024-2025 年度の活動実績について、同窓会員への報告がなされました。

劉山虎　会長

山口英幸　センター長

セミナーのセッションでは、6 名の同窓会員による自身の研究に関する発表を行われ、最後に同窓会の王清遠副会長（四川大学建築・環境学院教授）による挨拶で締めくくられました。

【「学者講壇」講演者】

趙　亮　教授（瀋陽航空航天大学計算機学院）
苗　蕾　教授（広西大学物理科学・技術工程学院）
向家偉　教授（温州大学機械電気工学院）
袁広銀　教授（上海交通大学材料学院）
劉則華　副教授（華南理工大学環境・エネルギー学院）
張玉蒼　教授（集美大学海洋食品・生物工学院）

午後には、温州大学の毛髪刺繍研究所や美術館の見学が行われました。毛髪刺繍研究所は、現代肖像画の研究開発を専門とする中国唯一の芸術機関で、古今東西の国内外の著名人の肖像画を鑑賞しました。美術館では、近現代中国絵画・書道をはじめとする多岐にわたる美術品や近現代文化史研究のための貴重な資料を見学しました。温州五馬街文化街区で開催された晩餐では、郷土の料理を堪能しつつ参加者同士の親睦を深め、来年の再会を期しての閉会となりました。

王清遠　副会長

蒋崇文　支部長

毛髪刺繍研究所見学の様子

美術館見学の様子

集合写真

2025年度希平会総会を開催

2025 年 10 月 24 日（金）に中国に事務所や拠点を持つ日本の大学等機関を中心とした「希平会」の 2025 年度総会を開催しました。今回は、対面で 17 機関 24 名、オンラインで 18 機関 29 名にご参加いただきました。

総会は、まず事務局からの報告にて、事前のメール審議において中央大学と京都光華女子大学からの正会員参加の申し出に対して決議・了承されたことが伝えられました。続いて、佐藤会長（福山市立大学）と川上副会長（創価大学）に引き続き役員をお願いしたい旨が提案され、決議・了承されました。次に、各大学等機関から活動報告が行われました。新規入会の中央大学と京都光華女子大学より、最近の活動状況について発表いただき、日本学術振興会北京研究連絡センターより「大学の世界展開力強化事業」について情報提供をしました。

講演のセッションでは、鄧川江氏（欧米同学会留日分会副会長、留日同学会商会副会長兼秘書長）にご登壇いただきました。鄧氏は、日本留学の経験を交え、中国から日本への留学に対する分析と見解を講演いただきました。特に、大学が各自の特色を打ち出して広報活動を行うことの重要性を強調され、参加者は多くの示唆を得ることができました。最後に佐藤会長は、日中で世界に羽ばたく人材を共に育成する段階にあるとの見解を示し、希平会の役割や必要性を訴えました。また川上副会長からも教職員一人一人の日々の努力によって日中の心の交流を実現できると感じていると発言があり、会員一同にとって励みになったことと思います。

対面参加者の集合写真

2025 年 10 月末日現在、希平会は正会員 41 機関、オブザーバー 14 機関が所属しています。引き続き連絡会・セミナー開催を通じて、会員間の連携と情報共有を継続し、より充実した活動を展開していく予定です。希平会にご興味のある大学等機関の皆様には、是非ご連絡いただければと思います。

活動記録

（2025 年 10 月～ 12 月）

10 月

16 日　中独科学センター 25 周年報告会出席
17 日　中国科学院科技戦略諮問研究院セミナー出席、中国科学院文献情報センター訪問
22 日　在中国日本国大使館秋の交流会出席
23 日　日本商会会合出席、清華大学野村総研中国研究センターセミナー参加
24 日　希平会総会開催
25 日　北京日本学研究センター 40 周年記念国際シンポジウム出席
29 日　広報文化十一者会出席
30 日　中国国際教育年会出席

11 月

1 日　JSPS 中国同窓会遼寧支部会開催
2 日　大連理工大学における JSPS 事業説明会開催
8 日　JSPS 中国同窓会湖北支部会開催
10 日　紫禁山天文台における JSPS 事業説明会開催

紫禁山天文台・史生才研究員らと

12 日　浙江大学薬学院訪問、JSPS 中国同窓会浙江支部会開催

浙江大学・戚建華教授（JSPS 中国同窓会員）らと

17 日　北京大学海外留学説明会参加
18 日　東京商工会議所講演会参加
25 日　英国研究・イノベーション機構（UKRI）中国代表処主任来訪
26 日　広報文化十一者会出席
29 日　JSPS 中国同窓会総会開催
30 日　電子科技大学主催 JSPS-NSFC 共同セミナー出席

12 月

5 日　JSPS 中国同窓会員・北京理工大学銭昆教授来訪、北京日本倶楽部文化イベント参加
11 日　名古屋工業大学訪問
15 日　JSPS 海外センター長会議・JSPS 同窓会長会議出席
17 日　国際生物学賞授賞式出席
22 日　広報文化十一者会出席
25 日　日本商会会合出席

理事長より新年の挨拶

あけましておめでとうございます。

昨年は、4年ぶりに日本人研究者がノーベル賞を受賞するという嬉しいニュースに接しました。これで21世紀に入ってから日本出身の受賞者は21名となりましたが、これは1位の米国には及びませんが、英国と2位を競っています。欧米を除く地域では、日本は唯一のノーベル賞の常連国となりました。

なぜ日本人研究者によるノーベル賞受賞が多いのでしょうか。いろいろと調べてみましたが、はっきりとした理由は分かりません。ただ、一つ言えることは、少なくとも第二次世界大戦後の日本では、いかなる分野の研究者も自分がやりたい研究に安心して取り組むことができる環境がある、という点です。

いやいや、研究費が足りないよとか、研究以外の雑用が多すぎますとか、いろいろと不満はあるとは思います。でも、たとえお金や時間がふんだんにあっても、政治が変わると風向きも変わってしまい、安心して研究に取り組めないような国ではどうしようもありません。実は最近、そんな国が増えているような気がしています。

国内では日本の研究力の将来を憂える声は後を絶ちません。もちろん気になる点はあります。でも、私自身はさほど悲観していませんし、むしろ楽観的です。その理由は、今述べた点で日本はとても優れていると感じているからです。もう一つは、日本人研究者の研究能力や研究姿勢に対する海外からの称賛の声をいつも耳にするからです。

日本に大学が誕生してまもなく150年となります。欧米の大学が数百年から千年の歴史を誇る中、たった150年で日本の研究者は世界で一目置かれる存在となりました。新年を迎えるにあたり、改めて先人の成し遂げてきた偉業の数々に思いを馳せながら、日本は学術研究を通じて世界に貢献するのだという思いを新たにしたいと思っています。

令和8（2026）年1月
独立行政法人日本学術振興会
理事長　杉野　剛

編集後記

学術の秋、実りの秋。日本人研究者のノーベル賞受賞―まさに実りの知らせに心から歓喜しています。当センターも北京、大連、武漢、南京、杭州、温州、成都と、各地で実りを求めて交流を深めました。先達が築いてきた歴史と、絶えることのない交流があってこそ今日の実りがあります。個人的にも合間を縫って長春、延辺、青島、昆明、さらにラオス、タイへ中国を知る旅にでました。今回蒔いた種が、きっと次の実りになると信じています。

副センター長　今城佳奈子

日本学術振興会 北京研究連絡センター
JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING OFFICE
北京市朝陽区東三環北路5号　北京発展大厦1021室
Tel: + 86-10-8882-4331　E-mail: beijing@jsps.org.cn　URL: www.jsps.org.cn
WeChat